

## スキフェス 2023 無事終了しました！

12月23日にスキフェス2023を開催しました。  
イベント当日は、4つのブースに分かれて、町にあふれる「スキ」がまるっと、ぎゅっと詰まったプログラムをご用意。総勢250人の方々に来場していただき、子どもから大人まで本当にたくさんの方楽しんでいただけたイベントになりました。

このイベント開催に向けて、見晴るかすコースの7人の中学生が3か月ほど企画・準備を重ねてきました。参加者からは、「イベント参加をとおして、たくさんの方から愛されている場所なんだと実感しました」「ここに集まる『スキ』がもっともっと町の中に広まっていったらいいなと感じました」など、とても温かいコメントをいただきました。最後に、今回のイベントをとおして伝えたかったことは、大きく2つあります。

1つ目は、町の公営塾として、子どもたちの「スキ」という気持ちを後押しできる存在であり続けたいということ。  
2つ目は、この町には「スキ」という気持ちをもとに、目の前にいる人や、町のことを大切に思い、行動してくれる素敵な人がたくさんいること。また、それを応援したり、協力してくれる人が身近にいることです。



これらをイベントに関わった全ての人に感じてもらえていたらうれしいです。

改めて、当日イベントにお越しいただいた方、また今回イベント開催にあたってご協力いただきました方に、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



放課後塾ハルは随時、新規入塾者を募集しています。  
ぜひ、お気軽にご相談ください。

Email:houkagojuku.halu@gmail.com  
TEL: [中学部] 080-7236-6232 / [小学部] 080-9151-6442  
※ 12:30 ~ 21:30 土日祝日、年末年始を除く。

## まちをデザインする—— 国見版C I 検討を進めています

第5回目の国見版C I 検討委員会を1月19日に開催しました。

検討委員会では、前回提案したフレーズ(案)の「寄り町 STAY 国見町」に合わせたグラフィック(案)を事務局から提案し、委員の方と意見交換をしました。委員の皆さんからは、「町の現状は表現されているが、町の将来についても絵で表現することはできないのか」などの意見が出されました。

フレーズやグラフィックの素案に対する意見を募集しています。詳しくは町ホームページなどをご覧ください。

企画調整課過疎対策係 ☎ 585-2160



▲イメージグラフィック(案)

- 昔から変わらない阿津賀志山を望む風景を、道を中心に表現。阿津賀志山に向かって伸びる道の両側に桃、りんご、水田、道の駅、阿津賀志山防塁、中尊寺蓮を描いています。
- 作図にあたり、少年仲間づくり教室生に協力してもらい、ワークショップを実施。子どもたちの描いた町の「推し」を取り入れました。



▲近藤院長から激励を受ける4人

同日に行われた出発式では、近藤祐一郎院長が「4人の精鋭が派遣され、大変心強く感じている。これまでの訓練の成果を十分に発揮してください」と激励しました。派遣される医師の宇之澤さんは「東日本大震災の際には、日本中から支援をいただいた。発災から約半月が経過し、被災者の皆さんはとも疲れています。これまでの恩返しとして、自分が持っている知識を活用して最大限のサポートをしたい」と話していました。

能登半島地震の発生から2週間あまりが経過し、被災者の健康状態の悪化が懸念される中、被災地の医療支援のため、公立藤田総合病院の医師ら4人が1月15日に石川県七尾市へ出発しました。  
福島県の医師会などでつくる災害医療チームJMAT(ジェイマット)福島県の第一陣として派遣されたのは、公立藤田総合病院から宇之澤和貴さん(医師)、金山稔さん(看護師)、齊藤由美子さん(看護師)、安齋光善さん(薬剤師)。4人は、能登半島地震で大きな被害を受けた石川県七尾市で、被災した病院や避難所での医療支援を18日まで行いました。



▲町が譲与した高規格救急自動車で被災地へ出発するJMATの皆さん

## 13年前の恩返しを心に誓い—— 能登半島地震の被災地へ向け、出発



▲出発のあいさつをする野村康宏さん

能登半島地震で大きな被害を受けた富山県氷見市で被災地支援を行うため、町の職員が1月25日に、現地へ向けに出発しました。  
富山県氷見市に派遣されたのは、野村康宏さん(住民防災課主任主査兼生活交通係長)と高橋直也さん(教育総務課主査)の2人で、出発日前日の1月24日、町役場庁舎のアカマツ広場で出発式が行われました。  
出発式の中で、引地真町長は「今回の派遣は、これまでいただいた応援と支援の恩返しの一つです。被災地の人たちの思いを自分事として、支援をお願いします」と派遣される職員を激励しました。

今回派遣された職員は、25日から31日までの7日間、氷見市で現地の職員や先に派遣されている他市町村の職員と合流し、防災証明書や発行や建物被害の認定調査など、被災地の業務支援にあたりました。  
派遣された野村さんは出発前に、「ふくしま災害時相互応援チームの一員として、被災された氷見市の皆さまが1日でも早く元の生活に戻れるよう、全力を尽くします」と決意を述べました。



▲引地真町長から訓示を受ける野村康宏さん(右)と高橋直也さん(中央右)